

高等教育情報メーリングリスト「Edutoku」の総括

吉田 博、飯尾 健、塩川奈々美（徳島大学高等教育研究センター）

1. はじめに

徳島大学高等教育研究センター教育改革推進部門（2019年4月1日～2025年9月30日）では、2021年4月より「授業について考えるランチセミナーアーカイブサイト（以下、アーカイブサイト）」、FDや高等教育に関する情報を、定期的に配信する Edutoku メーリングリスト（以下、Edutoku）の運用を開始した。Edutoku は、SPOD 加盟校の教職員、大学院生、学部学生を対象とした、無料の登録制メーリングリストである。毎週金曜日に、教育改革推進部門の専任教員および兼務教員である筆者らが、月ごとに交代でメール文面を作成し、2021年4月9日に第1号のメールを配信して以来、年末年始を除き、ほぼ毎週金曜日にメールを配信してきた。

Edutoku を始めた背景には、コロナ禍を契機に授業実践や教育に関する情報が、web上で広く公開されるようになったことがある。FD動画やFDアーカイブなど、多様なwebサイトが整備され、大学教職員は無料で有益な情報にアクセスできるようになった¹⁾。徳島大学でもオンラインFD「授業について考えるランチセミナー（以下、セミナー）」を開発し¹⁾、セミナーの動画や資料を掲載するアーカイブサイトを構築した。また一方で、我々は徳島大学やSPODが実施するFDを、関心のある教職員に対して、担当者が直接届け、参加につなげる方法を模索していた。こうした課題を解決する手段として、アーカイブサイト^{注1)}を限定公開する登録制のEdutokuの運用を開始するに至った。しかし、2025年10月1日、高等教育研究センターの改組により教育改革推進部門が統廃合され、構成員や業務が変化したことを契機に、2025年10月31日の最終号（233号）をもってEdutokuは廃止された。

本発表では、Edutokuのメール内容、登録状況、登録者の反応や意見、送信者による振り返りをもとに、Edutokuの総括を報告する。

2. 登録状況とメール内容

まずEdutokuの登録状況を振り返る。図1は、2021年4月の運用開始以降、新規登録の受付を終了する2025年9月末までの間の月ごとの新規登録者数を表している。新規登録者数は累計で300名であり、途中で転出や卒業等により28名が退会し、最終号のメールを配信する段階では、272名が登録されていた。図1より、2021年4月のEdutoku運用開始時が突出して多いことが分かる。Edutokuの開始に伴い、全学的に案内したことで、日頃からFDに関心のある教職員が登録したものと推察する。次に、登録のタイミングを見てみると、208名（約74%）がセミナーの開催日またはその翌日に登録している。実際、セミナーの中で、Edutoku登録者に限定してアーカイブサイトを公開していることを広報していたことから、セミナーがEdutokuを知るきっかけとなり、さらにEdutokuへの登録動機として、「アーカイブサイトの閲覧」が一番にあることが窺える。

次に、表1は、233通のメールに掲載された情報について、内容別の掲載数を表している。なお、アーカイブサイトは毎回のメールで案内していた。表1より、セミナーの案内や実施報告が最も多い。Edutokuではセミナーが開催されるたびに、その見どころの告知やセミナーの振り返りを行っていたことから、セミナーに参加していない教職員においても、Edutokuメールで概要を把握し、アーカイブサイトで確認するという流れができていたものと推察する。その実、アーカイブサイトに掲載されている動画は、セミナー翌日に配信されたEdutokuメールの直後に多く閲覧されている。また、SPODフォーラムや大学教育カンファレンスin徳島は、繰り返し告知していたことで、参加者数の増加、研究発表数の増加につながっている。高等教育関連情報についても、webサイトや記事のURLはメールで提供しやすく、閲覧も容易であることから多く掲載していた。

表1 メール内容別の掲載数（重複あり）

内容	掲載数
FD の案内(ジャーナル含む)	(小計)260
授業について考えるランチセミナー	143
その他の SPOD-FD プログラム	113
SPOD 以外の FD 情報	4
高等教育関連情報	(小計)407
web サイト・記事	203
書籍	82
論文	54
資料(報告書、答申など)	68
動画 URL	38

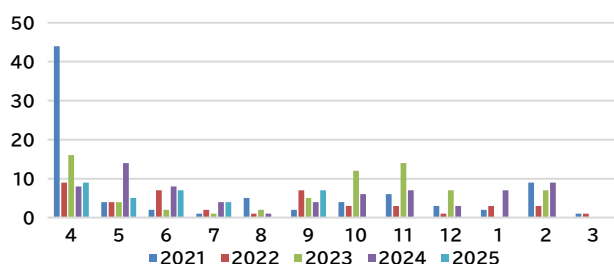


図1 月ごとの新規登録者数

3. Edutoku に対する登録者の反応・意見

登録者の意見を聞くために、最終号のメールで、Edutoku に対する意見を匿名投稿できる web フォームを掲載し、26 名（約 9.5%）から意見が寄せられた。表 2 はメール文面の確認の程度、表 3 は有意義度を表している。回答状況からして多くの登録者はメール文面を見ていない可能性があるが、少なくとも 1 割程度の登録者は、メール文面を確認し、各自の興味に応じて提供する情報にアクセスしていることが分かる。このような登録者は、Edutoku を有意義であったと感じていることが分かる。有意義であった理由を記述式で問う設問では、「(最新の、興味深い) 教育関連の情報を定期的に得ることができる」という意見が最も多く、「刺激になった」との声も挙げられていた。

4. 送信者による振り返り

Edutoku は、筆者ら 3 名が分担月ごとにメール文面を作成し、相互に確認して送信していた。ここでは、送信者の立場からその意義を振り返る。まず、登録者にとっては、SPOD の FD や我々の活動を身近に感じられ、FD 参加のハードルを下げるとともに、自身の授業実践や教育観を見直す契

表2 Edutoku メール文面の確認の程度

	回答数
毎週メール本文を確認しており、紹介されている web 記事、論文・書籍、動画、イベントなどの情報も、おおむね確認したり目を通して	5
毎週メール本文は確認しており、紹介されている web 記事、論文・書籍、動画、イベントなどの情報については、すべてではないが興味・関心があるものは確認したり目を通す時があった	17
毎週メール本文は確認していたが、紹介されている web 記事、論文・書籍、動画、イベントなどを確認したり目を通すことはあまりなかった	3
毎週メールが来ていることを認識していたが、メール本文を確認したり目を通すことはほとんどなかった	1

表3 Edutoku の有意義度

	回答数
とても有意義なものであった	15
どちらかと言えば有意義なものであった	11
どちらかと言えば有意義なものではなかった	0
有意義なものではなかった	0

機となっていたと考えられる。さらに、アーカイブサイトにアクセスできたことも有益であった。また、Edutoku 配信を行うための情報収集や文献を読む過程は送信者である我々自身にとっても学びの機会となった。SPOD フォーラム等で「いつも Edutoku 拝見しています」と声をかけられることもあり、登録者とのゆるやかな関係形成にも繋がった。FD を企画する教育改革推進部門や SPOD にとっても、担当者から教職員に直接 FD 情報を届けられる利点は大きく、部門や我々の取組を身近に感じてもらう効果もあったといえる。一方で、メール文面の作成には一定の負担やプレッシャーを伴っていたことも否めない。

5. まとめ

Edutoku は、教育開発者である我々自身や FD と教育活動に関心の高い教職員を繋ぐツールとして機能していたことが分かる。また、セミナーに関する情報提供を通して、アーカイブサイト利用に繋げる役割も果たしていた。一部の登録者には有益な取組であったことが示唆された。

注 1) アーカイブサイトは、2025 年 9 月末までは、Edutoku 登録者に限定公開していたが、現在は専用の web サイトで完全に公開されている。

参考文献

- 吉田 博、飯尾 健、塩川奈々美、杉田郁代、高畑貴志 (2025) 「気軽に参加できるオンライン FD セミナーの開発とその評価」、『高等教育開発』、第 4 号、17-26。